

身近な私達だからこそできることがある

## 杉並中学生生徒会サミット開催

1日(土曜)、いじめ根絶のためにできることを中学生が考え議論する「杉並中学生生徒会サミット」がセシオン杉並(梅里1丁目22番32号)で開催されました。今年で3回目となるサミットでは、区内の全23区立中学校の代表が、およそ200人の来場者とともに、活発な議論を行いました。

学校におけるいじめ。それは、大きな社会問題となっています。とりわけ、先日、岩手県矢巾町で中学2年の男子生徒がいじめを苦しんで自殺したニュースが全国で大きく報道されたことは、記憶に新しいかと思えます。杉並区でも、問題行動調査の結果では、小中学校でのいじめは、24年度478件が25年度では531件と増加傾向となっています。

区では、こうした状況に対応するため、「すぎなみいじめ電話レスキュー」により、いじめに苦しんでいる子どもの悩みを電話で相談に応じたり、今年の6月には若者の間で浸透しているスマートフォン向けアプリ「すぎなみネットでトラブル解決支援システム」を開発し、いじめの相談を受け付けるなど、いじめの根絶に向けた取り組みを行ってきました。しかし、そのような行政による施策以外にも、いじめ根絶ために、実際にいじめが起こりうる現場にいる自分達自身が当事者意識を持ち、身近な問題として解決できないかと、区内の中学生が立ち上がりました。それが平成25年に始まった「杉並中学生生徒会サミット」です。



3回目となる今年も、若者の間で流行しているSNSでいじめが起きた場合の事例を用いて議論が行われました。会場では、「面と向かって人と話す」や「信頼できる仲間を1人でも見つけて勇気を持って戦う」など前向きな意見が多くいただきました。

また、自らもいじめを受けた経験のある、スポーツコーディネーターの三屋裕子さんをパネラーとして招き、保護者や教員、地域の人々とともに解決策をさぐりました。三屋さんは、「SNSのような便利なツールで簡単に書き込みができる時代だからこそ、人の目を見て直接話すことが人間関係を構築する上で大切」と語ります。

さらに、この日、サミットで司会を務めた天沼中学校3年生の秦ゆかりさんは「サミットを通じて他の学校の人と話し貴重な意見を聞いてよかった。今後、杉並からいじめ撲滅に向けた取り組みが全国に広まってほしい」と話していました。

中学生達は、サミットで話し合われたことを自校にもちかえり、今後いじめ撲滅に向けた具体的な「アクションプラン」について、検討を進めていきます。

### 【報道機関 問い合わせ先】

済美教育センター 電話 03-3311-0021

総務部広報課 電話 03-3312-2111